

# 会津北嶺 鮮やか集中打

## 秋季高校野球県大会開幕 65校58チーム出場

来春の選抜大会(センバツ)につながる第75回秋季東北地区高校野球県大会は16日、いわき市のいわきグリーンスタジアム、白河市の白河グリーンスタジアム、会津若松市のあいづ球場、郡山市のヨーク開成山スタジアム(開成山野球場)で開幕し、1回戦10試合を行った。

いわきグリーンスタジアムでは、いわき湯本が10-3で磐城桜が丘に8回コールド勝ちし、あいづ球場では、会津北嶺が6-1で修明を破った。

今年の秋の県大会は、チーム数の減少などに伴い、支部予選がなく、65校58チームが出場している。決勝は10月1日にいわきグリーンスタジアムで行う。上位3校は同月16日に秋田県で開催する東北大会に出場する。

### 県内公式戦で初の継続試合

安達本宮・小高産技

1回戦10試合のうち、いわきグリーンスタジアムで行われた第3試合の安達・本宮・小高産業技術戦は雷雨のため0-0の四回表終了時に中断した。県高野連は試合の続行が難しいと判断し、継続試合の実施を決めた。

継続試合は大会第2日の17日午後3時、同球場で四回裏から行う。今年の春の県大会で継続試合が導入されて以降、県内の公式戦で適用されるのは初めて。

秋季高校野球県大会

## 仲間信じ 渡辺好投

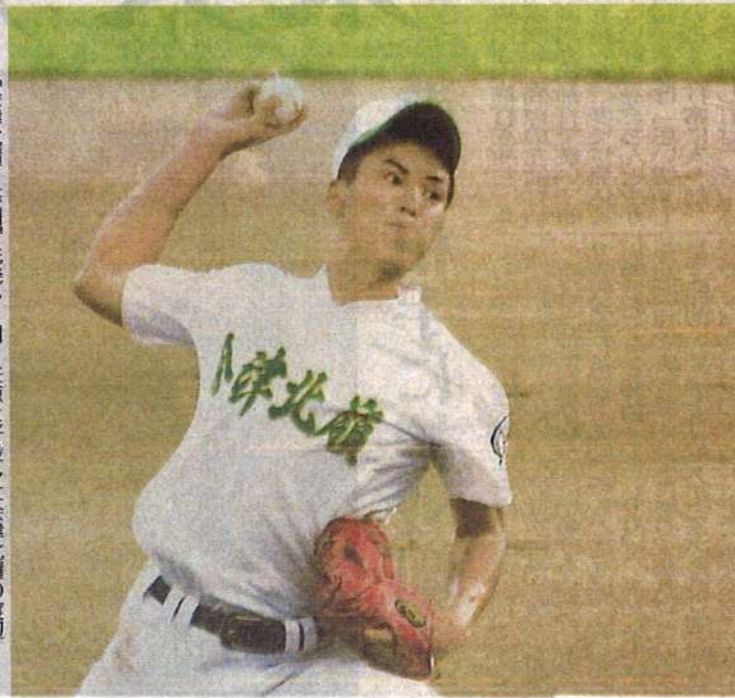
### 7回1失点、逆転呼び込む

会津北嶺の先発渡辺新は7回1失点の好投で、チームに逆転勝ちを呼び込んだ。「野手がしっかり守ってくれたので、自信を持って投げ込めた」と汗を拭いた。

今夏の福島大会は背番号18をつけ、同校初のベスト4入りに貢献した。3年生の引退後、寂しさや喪失感から投球の調子を崩した。最速は140キロを誇るが、129キロまで落ちた時期もあった。手を差し伸べてくれたのは、バッテリーを組んでいた3年の富山紘之進さんだった。「捕手を引っ張るくらい強気で投げろ」と助言をもらった。

徐々に調子を取り戻したが、今大会は背番号7で臨んだ。一回に先制を許したが、二回以降は制球を重視し凡打の山を築いた。六回1死三塁の窮地でも、続く3、4番を得意の外角のツーシームで飛球に打ち取った。打線は五回に渡辺の中越え二塁打など5安打を集め、逆転に成功した。

東北大会に進み、センバツ出場を目指す。19日の2回戦は同じ会津支部の只見と戦う。「試合の入り口に気を付け、勝利に導く投球をする」と己を奮い立たせた。



【会津北嶺】先発し7回1失点と好投した会津北嶺の渡辺



◇あいづ◇1回戦  
会津北嶺 000040110|6  
修明 100000000|1  
(北嶺) 渡辺、磯川一秋山  
(修明) 八巻一高野  
▷三塁打 兼子(北) 藤元(修) ▷二塁打 永井、渡辺、秋山(北) ▷失策 北3、修3  
▷安打 北12、修6 ▷奪三振 北4、修2▷与四死球 北1、修6▷犠打飛 北5、修1  
▷残塁 北14、修5  
(球) 長谷川(壘) 猪股、佐藤勇、佐藤公  
▷試合時間 2時間5分